

## 核被害、紛争被害地域の平和観の国際比較

松尾 雅嗣

広島大学平和科学研究センター客員研究員

## **An International Comparison of the Concept of Peace among Nuclear- and War-Affected Areas**

**Masatsugu MATSUO**

**Affiliated Researcher, Institute for Peace Science, Hiroshima University**

### **SUMMARY**

The present paper is an initial attempt at the comparison of the peace concept of the youth of five areas which were either nuclear-affected or war/violence-affected. The areas to be compared are: Hiroshima which was hit by an atomic bomb, Semipalatinsk,

Kazakhstan which was affected by hundreds of the Soviet nuclear test, Tomsk, Russia which was threatened by an accident of a secret nuclear facility nearby, Cali, Colombia which was affected by internal conflict, and Jeju, Korea, which experienced a massacre by the government. The comparison is based upon the association experiment survey conducted in 2007 and 2008 in universities of the areas. The number of respondents amounts to some 1.800.

Responses to the survey are first coded and grouped into “categories.” Then, on the assumption that the frequency of the category reflects its importance, some 60 categories are selected as representing most important components comprising the peace concept of each area. The number of categories are further reduced to 20 for the sake of convenience of the comparison in terms of a multivariate procedure.

A correlation analysis shows that the five areas are divided into three groups: Tomsk-Semipalatinsk, Hiroshima-Jeju, and Cali. A factor analysis endorses this division, and further shows that

- (1) the peace concept of the Tomsk-Semipalatinsk group emphasizes positive peace aspects in societal and interpersonal relations,
  - (2) in contrast, the Hiroshima-Jeju group focuses more upon direct violence in international arena, in its peace concept,
- and
- (3) the concept of peace in the Cali group covers both direct and structural violence, and both societal and international spheres of peace, though it is rather inclined societal positive peace.

## 1 . はじめに

われわれは核被害あるいは内戦を含む戦争被害を経験した地域の若者の平和観の国際比較を試みている。当初の計画では、核被害を経験した地域に限定し、広島、カザフスタンのセミパラチンスク (Semipalatinsk)<sup>1)</sup>、ロシアのトムスク (Tomsk) の3地域を対象として比較を行う予定であった。広島は、言うまでもなく、原爆投下の直接の被害を受けた都市である。セミパラチンスクは、450回以上の核実験が行われた旧ソ連の核実験場に近接する都市であり、今日でも周辺を含め後遺症に苦しむ被害者が多い<sup>2)</sup>。トムスクは、広島、セミパラチンスクと異なり、直接の被害は経験していないが、プルトニウム生産のための原子炉と、使用済核燃料の再処理による核弾頭の生産設備とを有する旧ソ連時代の秘密都市、暗号名「トムスク7」(現セーヴェルスク、Seversk) に近接する。1993年に重大な核事故が発生し、トムスクの住民も被害を被る危険があった。トムスクは、言わば核被害の可能性のあった都市である。元来は、このように質の異なる核被害地域の平和観の差異を明らかにすることが目的であった。しかし、その後コロンビアのカリ (Cali) と韓国の済州 (Jeju) 島の研究者の協力が得られることになり、この2地域も対象地域に加えることとした。カリは周知のコロンビア内戦の直接間接の影響を被った都市であり、済州島は所謂四・三事件で多くの犠牲者を出した歴史がある。

本稿では、まず、各地域の若者、特に大学生が、平和をどのようなものと考えているかを探る。これにもとづき、地域比較を行い、地域間の差異と共通性を探る。次の第2節では、本稿の基礎となった調査の概要を述べ、第3節で各地域の回答の概要を示す。4節、5節では、因子分析を利用して5地域の共通性と差異を探り、最後に結論を述べる。

本研究は現在未だ進行中であり、本稿の分析も初歩的なものに留まらざるを得ないことを予め断っておく。

## 2 . 調査方法：連想調査法

われわれが平和観の比較検討のために採用した方法は、「連想調査法」と呼ばれるごく単純な方法である。連想調査では、「刺激語」を与え、被験者にこの刺激語から連想される単語、語句を回答することを求める。回答する単語数（反応語数）、回答時間が制限されるのが普通である<sup>3)</sup>。本研究の調査では、刺激語を（現地語の）「平和」とし、回答語数を最大10語まで、回答時間を3分に限った。質問兼解答用紙の英文の例を付録に掲げる。この調査の前提は、刺激語「平和」に対する反応語は、全体として集団の平和観を相当程度に反映するという仮定である。

実際の調査では、設問と回答の言語は、現地の言語である。但し、セミパラチンスクでは、カザフ語ではなくロシア語を用いた。大学ではロシア語のほうが圧倒的に優勢だからである。調査票回収後に、現地言語で記入された回答を英語に翻訳した。以下は、この翻訳にもとづく結果である。調査地域と対象者数は次の表1の通りである。

表1 調査地と回答者数

調査対象地域と大学	調査年	回答者数
トムスク（ロシア） トムスク教育大学 トムスク大学	2007	489
セミパラチンスク（カザフスタン） セミパラチンスク医科大学	2008	477
カリ（コロンビア） I CESI 大学	2008	105
広島 広島大学 広島国際学院大学 安田女子大学	2007	410
済州（韓国） 済州大学	2008	333
<b>総計</b>		1811

回答者数にはばらつきがあること、地域の大学と回答者を無作為に選ぶことができなかったことなど、結果の偏りに影響を与えかねない要因もあるが、この

点についてはここでは問わない。

回答者の年齢と性別の分布を表2、表3にそれぞれ示す。済州のデータは得られていないので集計から除いた。回答者の平均年齢はほぼ20歳であり、地域間の有意な差は認められない。他方、回答者の男女比には地域間に相当のばらつきがある。しかも、全体として明らかに女性に偏っていると言えよう。これは今後の分析において念頭に置くべきであろう。回答者の国籍についてはここでは触れないが、トムスクとセミパラチンスクでは回答者に相当数の外国人留学生が含まれる。

表2 回答者の年齢（無回答を除く）

	総数	平均	最小	最大	標準偏差
トムスク	489	18.4	16	32	1.48
セミパラチンスク	474	20.9	18	32	1.44
カリ	103	19.4	16	32	2.64
広島	410	19.9	18	65	3.18
合計	1476	19.7			2.39

註：済州のデータは不明

表3 回答者性別（無回答を除く）

	男		女		行合計
		(%)		(%)	
トムスク	104	(21.4)	380	(78.5)	484
セミパラチンスク	200	(42.2)	273	(57.7)	473
カリ	45	(45.4)	54	(54.6)	99
広島	139	(33.9)	271	(66.1)	410
合計	488	(33.2)	978	(66.7)	1466

註：済州のデータは不明

### 3. 結果概要

調査の実際の回答は、単語あるいは語句である。文で回答した例も稀にある。

回答された単語もしくは句（反応語）は二つの方法で変換、コード化した<sup>4)</sup>。コード化した結果を以下「カテゴリー」と呼ぶ。同義語、類義語は併合してひとつのカテゴリーとする一方、複合的な語句、表現は二つまたはそれ以上の基本的カテゴリーに分割した。例えば、“World without war”は、“World”と“NoWar.”というふたつのカテゴリーに分割した。表4に回答（反応語）の概要を示す。

表4 反応語（回答）概要

	回答者 総数	カテゴリー 種類数	回答 延数
トムスク	489	1075	4262
セミパラチンスク	477	502	4365
カリ	105	338	989
広島	410	681	3011
済州	333	473	2658

次の表5は、それぞれの地域で回答の多かったカテゴリー、具体的には10%以上の回答者が回答として与えたカテゴリーを、地域ごとに示す。

以下、本稿の分析は、表5に示されたカテゴリーにもとづいて行う。言うまでもなく、以下のデータは未だ不完全なものであり、10%という閾値に問題なしとしない。しかし、このデータは、反応度数の大きさが重要性を反映する限りにおいて、それぞれの地域において重要性の高い回答と看做するという意味において、換言すればそれぞれの地域の平和観の重要な構成要素であるという意味において、将来のより厳密、詳細な分析の出発点となる作業仮説を示唆するには十分であろう。

表5 各地域で10%以上の回答のあったカテゴリー

(数値は回答者数に対する百分比)

トムスク		セミパラチンスク	
Friendship	43.6	Love	75.9
Love	35.8	Friendship	51.8
Composure	30.7	Happiness	47.0
Happiness	28.8	Family	41.5
NoWar	27.6	Health	36.7
Kindness	22.5	Joy	27.7
Joy	20.2	MutualUnderstanding	25.8
MutualUnderstanding	16.6	Kindness	23.1
Earth	16.4	Well-being	21.0
Life	16.0	Life	20.3
Freedom	13.7	Consent	19.3
Planet	13.7	Unity	18.7
People	13.5	Children	15.9
Children	11.9	Respect	13.0
Universe	11.5	Sun	12.6
Nature	10.0	Richness	12.2
		Success	12.2
		Goodfortune	11.9
		Study	11.5
		Hope	11.3
		Composure	10.7
		Faith	10.5
		NoWar	10.5
		Freedom	10.3

(次頁に続く)

表5 続き

カリ		広島		済州	
Tranquility	53.3	Pigeon	56.6	Pigeon	52.6
Respect	46.7	NoWar	53.4	KoreanReunification	38.4
Tolerance	44.8	HiroshimaNagasaki	43.2	NoWar	38.1
Happiness	36.2	PaperCrane	31.0	Love	30.3
Equality	28.6	PeacePark	23.9	Harmony	27.6
Harmony	27.6	AtomicBomb	23.7	Freedom	26.4
Solidarity	25.7	ABombDome	21.0	UnitedNations	26.1
Freedom	24.8	World	16.3	Olympic	25.8
NoViolence	21.9	Happiness	15.1	Smile	21.9
NoWar	17.1	Love	14.4	White	18.6
Security	16.2	Smile	13.2	Equality	18.3
Justice	15.2	Japan	12.4	PresidentKimDaeJung	15.3
Love	15.2			JejuIsland	14.4
Safety	14.3			PresidentNohMuHyun	11.1
Union	14.3			Handshake	10.2
Dialogue	13.3				
White	13.3				
Fairness	11.4				
Hope	11.4				

表5に見られるように、回答者の多数が「平和」と連想するカテゴリー自体にも、その反応度数にも地域ごとに大きなばらつきがあるが<sup>5)</sup>、本稿ではこの点については割愛する。

地域間の差異は、すべての地域で10%以上の度数を示すカテゴリーが非常に少ないことにも現れている。表5から読み取れるように、すべての地域に共通するのは、「Love」と「NoWar」という二つのカテゴリーだけである。コーディング方法の変更、閾値の変更（例えば5%に変更）によっては、他のカテゴリーが含まれる可能性もないわけではないが、今のところこのふたつのカテゴリーが、地域の歴史、政治等にかかわらず、「平和」の普遍的な構成要素を成すカテゴリーであると言えよう。勿論、5地域に共通とはいえ、表6に示すように地域によりこのふたつのカテゴリーの重要度（実際には相対反応度数）に大きな差があることは忘れてはなるまい。如何なる歴史的、政治的、文化的な要因、

あるいは他の要因がこのような差異を生み出すのかは、今後の検討すべき課題である。

表6 5地域に共通のカテゴリー

	トムスク	セミパラチンスク	カリ	広島	濟州
Love	35.8	75.9	15.2	14.4	30.3
NoWar	27.6	10.5	17.1	53.4	38.1

#### 4. 地域相互の関係

地域間の平和観の親疎遠近を図るために、本稿ではごく大雑把な第一次接近法を用いた。まず表5のデータにもとづき、末尾の付表のようなマトリックスを作成した。これは、カテゴリーをケース、地域を変数、各地域の当該カテゴリーの反応比率を変数値とするマトリックスである。その際、各地域において反応比率10%以下のカテゴリー、即ち、それぞれの地域について表5に掲げられていないカテゴリー、については、乱暴ではあるがその反応度数を1%と仮定した。確かに、この仮定は地域間の反応の類似性よりも差異を過剰に表現するが、分析のこの段階では深刻な問題は生じないと思われる。

さらに分析を単純化するため、付表の58カテゴリーを20カテゴリーに減らした。付表で各カテゴリーについて反応比率の総和（各行の和）を求め、40%以下のものは分析から除外した。但し、特定の地域での反応比率が30%を超えるカテゴリーは分析に加えた<sup>6)</sup>。こうして得られた20のカテゴリー（付表で網かけを施したカテゴリー）の地域別の反応比率を用いて、地域間の相関を求めたのが、次の表7である。

表7 20カテゴリーの反応比率にもとづく相関係数

	トムスク	セミパラチンスク	カリ	広島	済州
トムスク		0.6582	-0.2152	-0.0274	-0.0562
セミパラチンスク	0.6582		-0.2064	-0.2078	-0.1848
カリ	-0.2152	-0.2064		-0.2180	-0.0683
広島	-0.0274	-0.2078	-0.2180		0.4751
済州	-0.0562	-0.1848	-0.0683	0.4751	

表7から明らかなように、トムスクの反応とセミパラチンスクの反応の近さ、広島と済州の反応の近さが際立っている。この表の相関係数を近接度の指標と看做することができるという前提の下ではあるが、対象とした5地域は、トムスクとセミパラチンスク、カリ、広島と済州という3つのグループに分かれると言ってよからう。

これをさらに詳しく見るために、上記20カテゴリーを用いた因子分析を行った。バリマックス回転後の寄与率は二つの因子で41.2%、因子負荷量は次の表の通りである。

表8 因子負荷量（バリマックス回転後）

変数名	因子1	因子2
トムスク	0.737	-0.038
セミパラチンスク	0.741	-0.226
カリ	-0.318	-0.244
広島	-0.026	0.650
済州	-0.071	0.569

この因子負荷量を視覚的に散布図として示したのが次の図1である。

図1 地域間の相互的位置

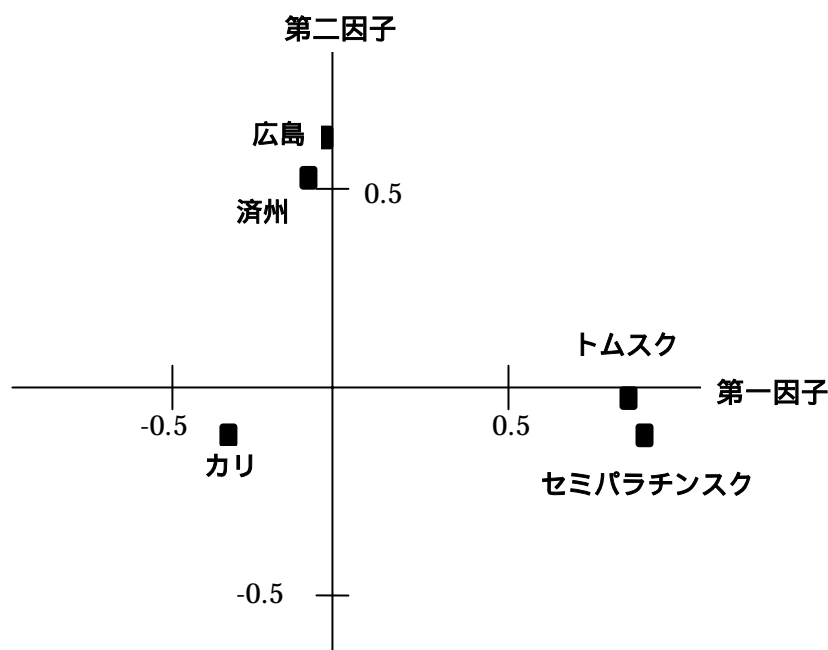


表7と図1のデータは、これまでの分析手順の粗雑さからして厳密には再考の余地があるにせよ、5地域の平和観の親疎遠近を知る大まかな目安と見ることが出来る。まず第一に、トムスクとセミパラチンスクの平和観は、きわめて近いということである。平和観の近接性には、このふたつの地域の歴史的文化的要因が多分に作用しているとも考えられるが、ここでは触れない。第二に、広島と済州の平和観も同様に近い。第三に、カリの平和観は、上記二つのグループいずれともほぼ同じくらいに遠い。これを要するに、(トムスク・セミパラチンスク)、(広島・済州)、(カリ)という3つのグループに分けられると言えよう。

## 5 地域間の差異の内実

前節では因子分析の結果にもとづき、調査対象の5地域が(トムスク・セミパラチンスク)、(広島・済州)、(カリ)という3つのグループに分けられることを示した。しかし、この区分が連想調査に対する反応のどのような内容に対応するのか、平和観のどのような違いに由来するのかは明らかではない。本節では、

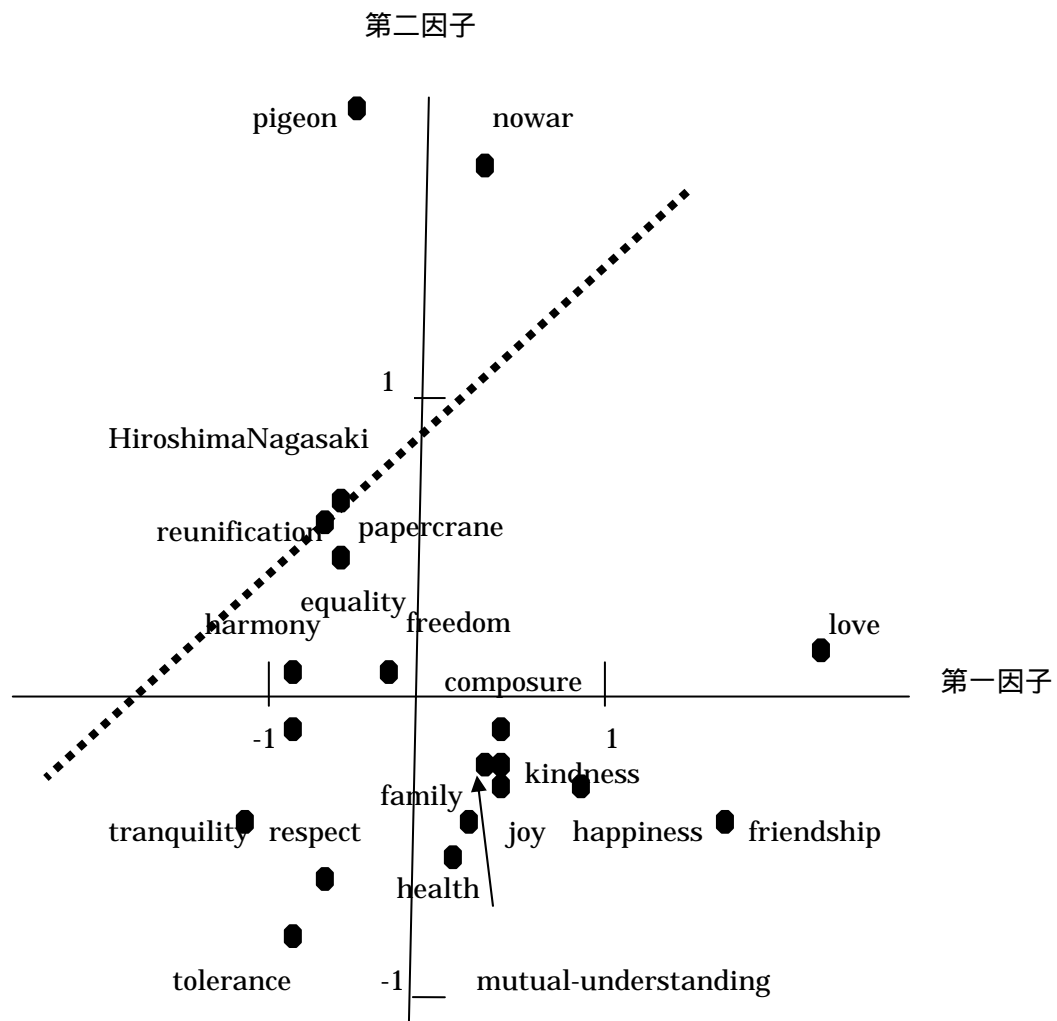
対象地域間の平和観の差異と共通性の内実を探ることを試みる。これは、また、上掲図1の二つの因子の意味を探る試みでもある。

この目的のため、ここでは前節で行った因子分析結果の因子得点を用いる。次の図2は、20のカテゴリーの第一、第二因子の因子得点をプロットし、20カテゴリーの相互関係を示したものである。

この図は筆者がかつて行った日本人学生の連想調査結果（松尾 1983: 22）にかなり近いものである<sup>7)</sup>。とはいえ、この図から直ちに因子の意味を推定することは容易ではない。

図2の縦軸に沿って上方の（縦軸の値の大きい）位置には、“NoWar”, “HiroshimaNagasaki”, “(Korean)Reunification”など国際関係を示唆するカテゴリーが位置している。“Pigeon”も同様に解されよう。これに対して、負の位置には、個人や対人関係を示すカテゴリーが多く位置している。このふたつからして、第二因子は、値の大きい順に、国際社会、国家、社会、地域、家族、個人（の内面）など平和の成立する場<sup>8)</sup>を示す因子と考えられよう。

図2 因子得点にもとづく20カテゴリーの相互関係



第一因子の解釈は一義的に定まりそうにない。そこで、図の点線で示すように、斜線を入れてみる。斜線の左上には、戦争や核兵器など直接的暴力が廃絶された状態、所謂消極的平和にかかわるカテゴリーが位置する。対蹠的に右下側には構造的暴力が廃絶された状態、積極的平和を示すカテゴリーが位置する。強引な解釈だが、この斜線からの類推で、第一因子は積極的平和と消極的平和を対比する因子であると言えよう。

### 結論

本稿の因子分析結果から、調査対象とした5地域の平和観は、(トムスク・セ

ミパラチンスク)、(広島・済州)、(カリ)という3つのグループに分けられる。これを分ける基準は、平和の成立する場と、積極的平和と消極的平和の対比とのふたつである。図1に示した3者の相互的位置関係は、以下のように説明されよう。

トムスクとセミパラチンスクの平和観は、平和の場としては、社会、個人に重心があり、所謂構造的暴力の廃絶された積極的平和を重視する。

これと対蹠的なのが、広島と済州の平和観である。広島と済州においては、平和の場としての国際社会が相対的に重要であり、直接的暴力の問題が大きな位置を占める。

カリの平和観は、社会、個人の場における積極的平和を重視するとはいえ、国内、国際社会という場も直接的暴力も無視してはいない。

以上が、本稿での分析によって得られる結論であるが、本文中で繰り返し述べたように、この結論が多くの仮定や単純化の上に成立していることに鑑みれば、より精緻な検証が必要であることは論を俟たない。また、仮に、上記の結論が妥当だとすれば、5地域の平和観の共通性と差異がどのような要因に由来するのかも明らかにする必要がある。いずれも今後の検討課題である。

## 謝辞

本研究には、平成19～20年度科学研究補助金基盤研究(B)海外調査「日本、ロシア、カザフスタンの核被害地域における平和観と核兵器認識の比較研究」課題番号19402017、研究代表者松尾雅嗣の援助を受けた。

吉田修、西田正広島大学教授、川野徳幸広島大学助教(当時)、山下明博安田女子大学教授、Vladimir Rouvinski コロンビアICESI大学教授、Kim Jin-Ho 済州大学教授、Zhaxybay Zhumadilov セミパラチンスク医科大学教授(当時)、Natalia Vitchenko トムスク教育大学教授、Larisa Deriglazova トムスク大学助教授には調査の一部を担当していただいた。Rouvinski教授とKim教授には、さらに回答の翻訳も担当していただいた。

ここに記して感謝の意を表す。

## 註

本稿の一部は Matsuo, Masatsugu et al (2008), “A Preliminary Comparison of the Concept of Peace Based on the Association Experiments among the Four Cities in Russia, Kazakhstan, Japan and Colombia,” *Proceedings of the Third international Conference on Peace Studies and Peace Discourse in Education, September 23-25, Tomsk Peadagigical University, Tomsk, Russia, 7-21* として発表したものである。

- 1 現地名はセメイ (Semey) であるが、本稿では慣用に従いセミパラチンスクを用いる。
- 2 Matsuo et al (2006), 136 など参照。実験の詳細はロシア連邦原子力エネルギー省・国防省編 (1996) 参照。
- 3 連想調査に関しては、Deese (1965) 及び Noble (1963) 参照。日本語調査結果については、梅本 (1969)、松尾 (1983) 参照。
- 4 詳細は紙幅を要することと未完成であることから、本稿ではコーディングの詳細は割愛する。
- 5 この差異は各地域の回答の多様性あるいは分散度によって説明できよう。次の表は、回答の分散の程度を地域ごとにまとめたものである。それぞれの地域の回答の分散の程度 (逆に言えば、集中の程度) は回答の種類数 (タイプ) を回答の延べ数 (トークン) で割った値 (タイプ/トークン比) で示される。この値が大きければ大きいほど回答は分散し、小さければ小さいほど、回答の分散度は低い、即ち回答は特定のものに集中する。例えば、セミパラチンスクでは、この値は 0.115 である。セミパラチンスクの回答の分散度は低い、逆に言えば集中度は高い。これにより、10% を超える回答が多いという表 5 のデータを説明することができよう。勿論、他の指標によってもこのような地域間の回答の集中・分散の度合いの違いを説明することができるはずである。

### 回答の集中と分散

	回答 種類数	回答 延数	タイプ/ トークン比
トムスク	1075	4262	0.252
セミパラチンスク	502	4365	0.115
カリ	338	989	0.341
広島	681	3011	0.226
済州	473	2658	0.178

- 6 付表のデータからカテゴリーを減らしても相関関係はさほど変わらない。次に、付表のすべてのカテゴリーを用いた場合の相関係数を示しておく。

	トムスク	セミパラ チンスク	カリ	広島	済州
トムスク		0.6385	-0.0205	0.0740	0.0517
セミパラチンスク	0.6385		-0.0195	-0.0628	-0.0472
カリ	-0.0205	-0.0195		-0.0849	0.0376
広島	0.0740	-0.0628	-0.0849		0.4044
済州	0.0517	-0.0472	0.0376	0.4044	

- 7 参考までに日本人学生の連想調査の因子分析結果を次に示す。出所は松尾 1983:22。

図 2 に示した本稿の結果と比較して、次図に示す日本人学生を対象とした調査では、核兵器、戦争に関するカテゴリーが決定的に重要である。

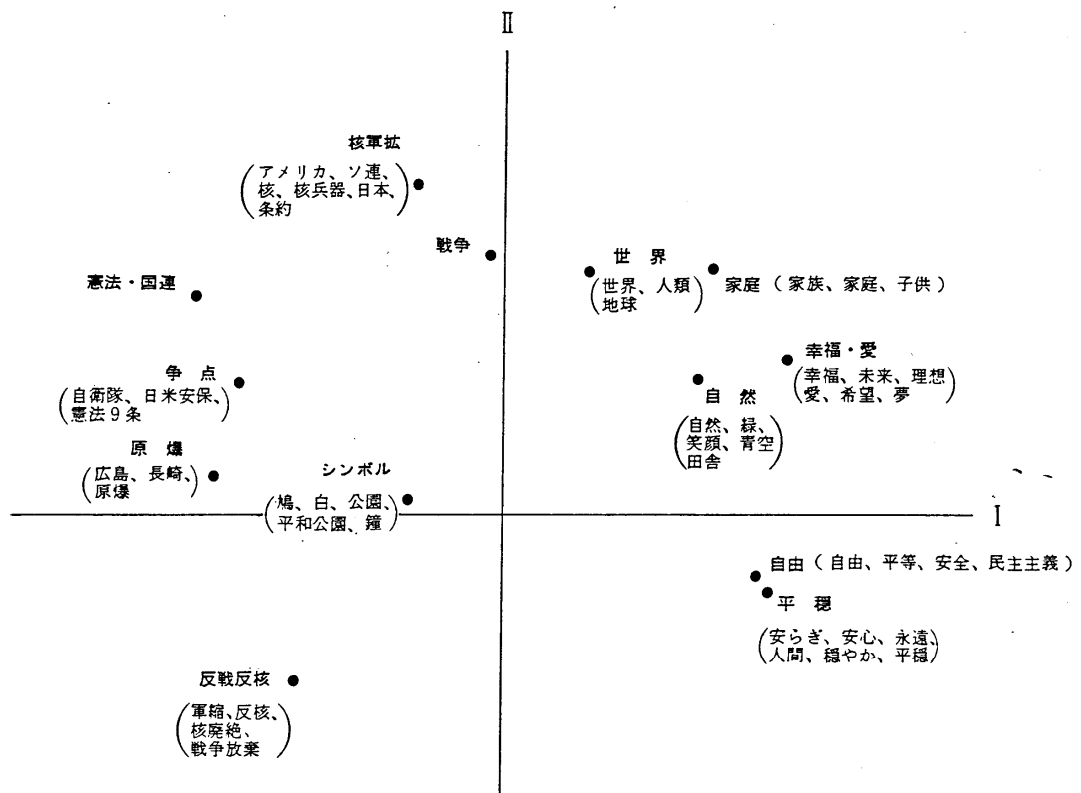


図4 13グループの相互的位置  
( ( ) 内は各グループに属する単語を示す。 )

8 詳細は、松尾(1984)、Matsuo(2007)参照。この概念を最初に提起したのは、Galtung(1981)である。

## 引用文献

Deese, James (1965), *The Structure of Association in Language and Thought*, The Johns Hopkins University Press

Galtung, Johan (1981), "Social Cosmology and the Concept of Peace," *Journal of Peace Research*, 18(2), 183-199

松尾雅嗣 (1983), 『連想調査による「平和」の意味分析』、広島大学平和科学研究センター研究報告シリーズ 8

松尾雅嗣 (1984), 「平和の成立する場：フィクションの用例分析」,

『広島平和科学』, 7, 55-76

Matsuo, Masatsugu and 5 others (2006), "A Preliminary Study on the Attitudes toward Nuclear Weapons and Nuclear Tests of the Residents of Kurchatov, Kazakhstan," *Hiroshima Peace Science*, 28, 134-154

Matsuo, Masatsugu (2007), "Concept of Peace in Peace Studies: A Short Historical Sketch," Vladimir Zelichenko et al (eds.) *Peace Studies and Peace Discourse in Education* (IPSHU English Research Report 20), 13-26, Also translated into Russian *Vestnik* (Tomsk State Pedagogical University), 64(1), 52-59

The Ministry for Atomic Energy and the Ministry of Defense of the Russian Federation (eds.) (1996), *USSR Nuclear Weapons Tests and Peaceful Nuclear Explosions 1949 through 1990*, Russian Federal Nuclear Center- VNIIEF

Noble, Clyde E.(1963), "Meaningfulness and Familiarity," Cofer and Musgrave (eds.) (1963), *Verbal Behavior and Learning*, McGraw-Hill, 76-155

梅本堯夫 (1969) 『連想規準表』、東京：東京大学出版会

付表 地域ごとの反応比率

( 網掛けは分析に用いたカテゴリー )

	トムスク	セミパラ チンスク	カリ	広島	済州
Love	35.8	75.9	15.2	14.4	30.3
Happiness	28.8	47.0	36.2	15.1	1.0
NoWar	27.6	10.5	17.1	53.4	38.1
Earth	16.4	1.0	1.0	1.0	1.0
People	13.5	1.0	1.0	1.0	1.0
Planet	13.7	1.0	1.0	1.0	1.0
Universe	11.5	1.0	1.0	1.0	1.0
Nature	10.0	1.0	1.0	1.0	1.0
Composure	30.7	10.7	1.0	1.0	1.0
Joy	20.2	27.7	1.0	1.0	1.0
Children	11.9	15.9	1.0	1.0	1.0
Freedom	13.7	10.3	24.8	1.0	26.4
Friendship	43.6	51.8	1.0	1.0	1.0
Kindness	22.5	23.1	1.0	1.0	1.0
Life	16.0	20.3	1.0	1.0	1.0
MutualUnderstanding	16.6	25.8	1.0	1.0	1.0
Sun	1.0	12.6	1.0	1.0	1.0
Goodfortune	1.0	11.9	1.0	1.0	1.0
Success	1.0	12.2	1.0	1.0	1.0
Study	1.0	11.5	1.0	1.0	1.0
Faith	1.0	10.5	1.0	1.0	1.0
Health	1.0	36.7	1.0	1.0	1.0
Richness	1.0	12.2	1.0	1.0	1.0
Well-being	1.0	21.0	1.0	1.0	1.0
Unity	1.0	18.7	1.0	1.0	1.0
Consent	1.0	19.3	1.0	1.0	1.0
Family	1.0	41.5	1.0	1.0	1.0
Respect	1.0	13.0	46.7	1.0	1.0
Hope	1.0	11.3	11.4	1.0	1.0
Dialogue	1.0	1.0	13.3	1.0	1.0
Safety	1.0	1.0	14.3	1.0	1.0
Security	1.0	1.0	16.2	1.0	1.0
White	1.0	1.0	13.3	1.0	18.6
Tranquility	1.0	1.0	53.3	1.0	1.0

Union	1.0	1.0	14.3	1.0	1.0
Fairness	1.0	1.0	11.4	1.0	1.0
Tolerance	1.0	1.0	44.8	1.0	1.0
NoViolence	1.0	1.0	21.9	1.0	1.0
Equality	1.0	1.0	28.6	1.0	18.3
Harmony	1.0	1.0	27.6	1.0	27.6
Solidarity	1.0	1.0	25.7	1.0	1.0
Justice	1.0	1.0	15.2	1.0	1.0
World	1.0	1.0	1.0	16.3	1.0
Pigeon	1.0	1.0	1.0	56.6	52.6
Smile	1.0	1.0	1.0	13.2	21.9
AtomicBomb	1.0	1.0	1.0	23.7	1.0
ABombDome	1.0	1.0	1.0	21.0	1.0
PaperCrane	1.0	1.0	1.0	31.0	1.0
HiroshimaNagasaki	1.0	1.0	1.0	43.2	1.0
PeacePark	1.0	1.0	1.0	23.9	1.0
Japan	1.0	1.0	1.0	12.4	1.0
Reunification	1.0	1.0	1.0	1.0	38.4
UnitedNations	1.0	1.0	1.0	1.0	26.1
Olympic	1.0	1.0	1.0	1.0	25.8
KimDaeJung	1.0	1.0	1.0	1.0	15.3
NohMuHyun	1.0	1.0	1.0	1.0	11.1
Handshake	1.0	1.0	1.0	1.0	10.2
JejuIsland	1.0	1.0	1.0	1.0	14.4

付録 質問兼回答用紙

実際の調査はこの質問兼回答用紙を、日本語、ロシア語、スペイン語、韓国語に翻訳して行った

First fill the following:

Age (            years )

Sex (male, female) [please encircle either]

Nationality (                            )

Please write down words and phrase in the following boxes which come to your mind when you hear the word "peace." Please give any number of words and phrase up to 10.

And please finish within 3 minutes.

please use these  
boxes


not for use

T-
----

